

食と芸能で久米島体感「久米島町 観光・物産と芸能フェア」

12月12日(金)～12月14日(日)の3日間、那覇市久茂地のタイムスビルにおいて「久米島町 観光・物産と芸能フェア」が行われました。16事業者が特産品及び工芸品の展示・販売を実施。飲食部門では初出店の「赤鶏の唐揚げ」が好評につき完売になるなど、会場は多くの来場者で賑わいました。芸能ステージでは土日の2日間にわたり「現代版組踊 月光の按司ガサシワカチャ」を公演。映画「おーるーブルー」制作陣のガレッジセールのゴリさん、平田理さんも観劇されました。3日間、久米島ファンの皆さまにお越しいただき大盛況となりました。



島の若者へ想いをつなぐご寄付



「若者たちに島への誇りを持ち、大きく成長してほしい」との思いから、昭和28年生の皆さまより、球美ワカチャの会へ5万円のご寄付がありました。「現代版組踊 月光の按司ガサシワカチャ」は今年12月に那覇公演と久米島公演を行い、多くの方へ感動を届けました。今回のご寄付は、島の若者たちの未来へつなぐ大きな励みとなります。

世界と久米島をつなぐ エミリーのCIR日記



11月の離島フェア出展

11月に「離島フェア」に初めて参加しました！那覇で毎年開催される離島フェアは、沖縄のさまざまな離島の産業振興を目的としたイベントです。各離島が出展し、伝統的なパフォーマンスや地域のグルメが楽しめる飲食店、出展ブースなどが並びます。

私も今回は、久米島のブースで名物の紹介や観光案内を担当していました。最初は、英語を話す方が多いのかなと思っていましたが、実際には台湾やインドなど、沖縄に住んでいる世界各国の方が久米島ブースに訪れてくれました。英語で案内することもありましたが、優しい日本語や、地図に情報を書き込んで直接伝える方が分かりやすい場面も多く、状況に応じて最適なコミュニケーション方法を考える良い機会となりました。

また、沖縄のさまざまな島々やその島民とも触れ合うことができ、他の離島の雰囲気を感じながら、今後の参考になる事例をたくさんいただきました。島によっては立派な名物の展示や、地元の子どもたちによる観光チラシ作り大会もあり、観光戦略を考える上で非常に参考になりました。

もちろん、久米島のことをあまり知らない観光客の方もいらっしゃいましたが、久米島出身の方やリピーターの方々もブースに来てくださり、久米島の思い出を暖かく語ってくれました。最終日にステージで久米島を紹介した際にも、観客の皆さんが嬉しそうに微笑んでいるのを見て、色々な場所から久米島への温かい思いを感じることができました。

この経験を通じて、沖縄県内外の方々との交流の中で、久米島の魅力を伝え、観光戦略やコミュニケーション方法を考えることができました。今後もさらに多くの方々にその魅力を届けていきたいと思っています。

